

# Pictet Global Market Watch

## バイオ医薬品関連株式は良好なパフォーマンス

2017年1月31日に開催された大手製薬会社の経営陣との会談でトランプ大統領が新薬承認プロセスの迅速化について確約して以降、バイオ医薬品関連株式は米国株式や新興国株式を上回って推移しており、会談が転機となった可能性があります。

### 足元、バイオ医薬品関連株式は米国株式や新興国株式を上回って推移

バイオ医薬品関連株式は、2017年1月31日にトランプ大統領とセルジーンやアムジェンなどのバイオ医薬品企業を含む大手製薬企業の経営陣が会談した席で、トランプ大統領が新薬の承認プロセスの迅速化を確約したことが好感され、米国株式や新興国株式を上回って上昇しています(図表1参照)。

年初来、トランプ大統領が大統領就任前に薬価の引き下げについて雑誌のインタビューで言及したことやM&A(合併・買収)の動きなどのニュースを受け、バイオ医薬品関連株式は上下する展開となっていました。トランプ大統領と大手製薬企業の経営陣との会談後はバイオ医薬品関連株式は堅調な推移となっており、会談が転機となった可能性があります。

### 大型のバイオ医薬品関連株式のバリュエーションは過去20年で最低の水準

足元、上昇基調にあるバイオ医薬品関連株式ですが、バリュエーション(投資価値評価)は歴史的に見ても割安な水準にあります。

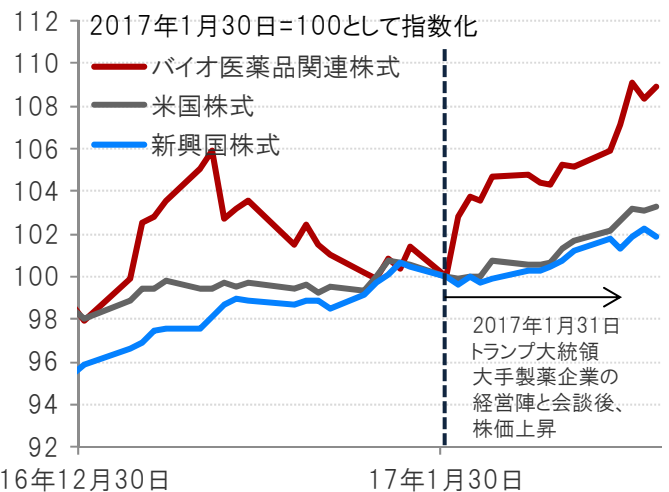
大型のバイオ医薬品関連株式のバリュエーションをS&P500種バイオテクノロジー指数の株価収益率(PER)で見ると、2017年2月17日時点のPERの水準は14.9倍と過去20年間の中でも低い水準に位置していることがわかります(図表2参照)。また現在は、米国株式(S&P500種株価指数)の21.6倍を下回っていますが、過去20年間で見ても、PERが米国株式を下回って推移した期間は今回を含めて3回しかありません。

<次ページにつづきます>

(※将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

図表1: 年初来のバイオ医薬品関連株式と米国株式、新興国株式の推移

日次、現地通貨ベース、期間: 2016年12月30日～2017年2月17日



※バイオ医薬品関連株式: ナスダック・バイオテック指数、米国株式: S&P500種株価指数、新興国株式: MSCI新興国株価指数、全て配当込み  
 出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表2: 過去20年間の大型のバイオ医薬品関連株式の株価収益率(PER)の推移

月次、期間: 1997年2月～2017年2月



※2017年2月は、2017年2月17日まで  
 ※大型のバイオ医薬品関連株式: S&P500種バイオナスダック・バイオテクノロジー指数、米国株式: S&P500種株価指数  
 出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

記載された銘柄はあくまで参考として紹介したものであり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

2017年2月17日時点の大型のバイオ医薬品関連株式のPERの水準は14.9倍ですが、過去20年間の実績を見ると、PERが10～15倍の水準をつけた後、大型のバイオ医薬品関連株式の株価は2年間で93%上昇しています(図表3参照)。

## バイオ医薬品関連企業は相対的に高い売上高成長が期待される

バリュエーション面では割安な水準にあるバイオ医薬品関連企業ですが、今後についても高い売上成長が期待されています。今後2年間の売上高の伸び率(年率)は米国企業の+6.0%、日本企業の+2.4%を上回る+9.5%と予想されています(図表4参照)。

バイオ医薬品関連企業は、現時点では医療ニーズが満たされていない病気などに対して画期的な新薬を提供するべく研究開発を続けており、引き続き新薬の承認が続くことが期待されています。

また、トランプ大統領が新薬承認プロセスの迅速化を確約したことで、今後、新薬承認が加速する可能性もあり、バイオ医薬品関連企業の業績の伸びにつながるものと期待されます。

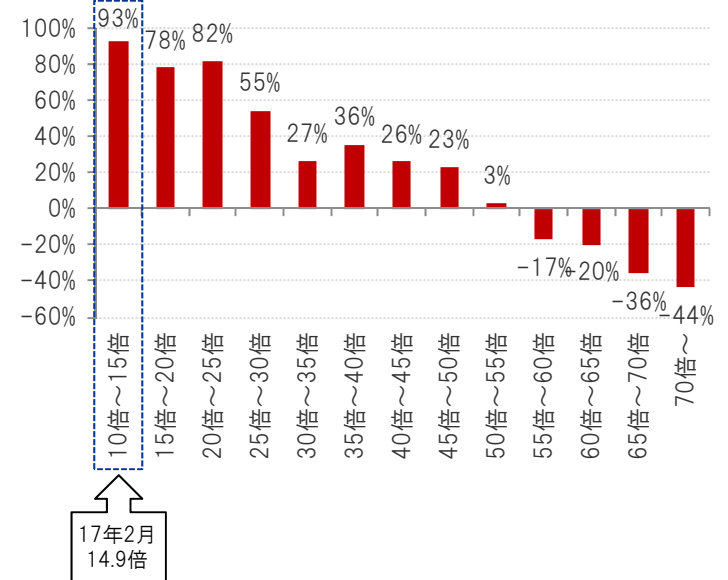
バイオ医薬品関連株式については、新薬承認プロセスの迅速化による新薬承認件数増加に対する期待の高まり以外にも、2017年も活発に推移しているM&A(合併・買収)の動きや世界的な高齢人口の増加なども株価の上昇要因となると考えます。また薬価引き下げの問題については、トランプ大統領の就任前から言及されてきたこともあり、PERが過去20年で最低の水準にあることなどを考慮すると、ある程度、株価に織り込まれている可能性があると考えられます。

ただし、今後、トランプ氏が公表する政策の内容次第では、バイオ医薬品企業の業績にとってマイナスとなり、株価の変動が大きくなる可能性もある点には注意が必要です。

(※将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

図表3: 大型のバイオ医薬品関連株式のPER水準別2年間リターン

月次、ドルベース、期間: 1997年2月～2017年2月



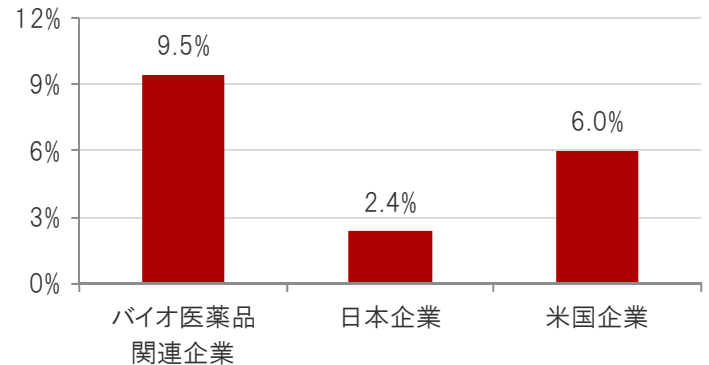
※2017年2月は、2017年2月17日まで

※大型のバイオ医薬品関連株式: S&P500種バイオナスダック・バイオテクノロジー指数

出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表4: 今後2年間の売上高伸び率(年率)予想

時点: 2017年2月15日、ブルームバーグ集計アナリスト予想平均



※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテック指数、日本企業: TOPIXの構成銘柄、米国企業: S&P500種株価指数

出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

# ピクテのウェブサイトでいま注目の マーケット情報がすぐわかる！

ピクテ

検索

検索またはこちらのURLをクリック！  
https://www.pictet.co.jp/top



弊社ホームページのトップ画面からご覧になる場合

お客様の「知りたいこと」がギッシリと詰まっています。



各市場の動向

注目ニュース

最新の  
マーケット動向

最新トピック

今後の注目点

下にスクロールして・・・



レポートの一覧へ

マーケット	ファンド	コラム
TH 新興国企業に分散投資 者数の下落だが 2016/06/06 今日のヘッドライン	FW 競争力のある原料薬が業績をけん引するリジェネロン 2016/06/02 iTrustバイオ	BJ 投資対象を決める時、重要なことは？ 2016/05/03 ポンジュール
TH ECB、政策金利据え置き、社債購入は5月8日から 2016/06/03 今日のヘッドライン	FW 中国A株の主要株価指数への採用の可能性 2016/06/02 新興イン	BJ ブラジル株式急上昇。気になる今後の行方は？ 2016/05/26 ポンジュール
TH ブラジルは景気後退から抜け出せるか？ 2016/06/02 今日のヘッドライン	FW 原油価格の行方、需給改善が鍵 2016/06/01 エマゴロ毎月	BJ 貴金属通貨、「めったにない状況」 2016/05/20 ポンジュール
GMW 原油価格を知る～変動要因(2)：非OPECの供給 2016/06/02 グローバル	FW 上場米で株価が177倍になったあのコーヒージャップの成功物語 2016/05/30 メジャー	BJ 5月の見通し 政治イベントを前に一目様子見 2016/05/13 ポンジュール
TH 人民元安だが、様子が違う 2016/06/01 今日のヘッドライン	FW 原油価格の行方、需給改善が鍵 2016/05/26 新興イン	BJ 追加緩和見送りで円高株安 2016/05/06 ポンジュール
TH 中央銀行も気にする、仮想通貨について 2016/06/01 今日のヘッドライン	FW 再び「成長」を取り戻せるか、経路に立つブラジル 2016/05/23 グラブラジ	BJ 貴金属価格、もしかすると膨れかか 2016/04/28 ポンジュール
TH 米国の金融政策を占う4つのポイント 2016/05/30 今日のヘッドライン	FW 4月世界高配当株式配当利回り～利回り差は依然高水準 2016/05/02 グロコン	BJ 「ニューソブリン」、知らなかったらグツてね 2016/04/21 ポンジュール
一覧はこちら	一覧はこちら	一覧はこちら

マーケットレポートの一覧へ

レポート一覧には、  
最新レポートや今知るべきマーケット情報が多数！  
業界最多水準のレポートをご用意しています。

最新のマーケット環境  
を知りたい

最近話題のトピックを  
おさえたい

いま注目のニュースに  
ついて理解したい

こんなご要望や疑問にお応えできるレポートです！

## 当資料をご利用にあたっての注意事項等

当資料はピクテ投信投資顧問株式会社で作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。